

ハイスクール議会、オンライン対話、有識者ヒアリング及び県民意見聴取

1 ハイスクール議会での意見概要

(1) 答弁概要（令和7年8月18日実施）

（若者の知名度、利用率の向上）

質問：新たな県民ホールにおいて、総合計画にもある通り「誰もが文化芸術に親しむことができる環境づくり」を目指すにあたって、若者としては、高校生の知名度及び利用率の向上に関して、知事の現状の見解と今後の対策方針について伺いたい。

回答：新たな県民ホールが、より多くの方に利用していただき、県民の皆様に愛される施設になるためには、今後何十年にもわたって利用していくこととなる若い世代の方々が使いやすく、足を運んでいただけるような施設にしていく必要がある。

そこで、現在、「みんなでつくる県民ホールアイデアコンテスト」等の機会を通じて、新たな県民ホールのアイデアを広く募集しているので、高校生の皆さんにも是非ご意見をいただきたいと思う。

また、来月3日に実施する予定の「当事者とのオンライン対話」において、吹奏楽部に所属する高校生や声楽を学ぶ大学生、若手バイオリニストなどの若い世代の方々と「新県民ホールに期待すること」をテーマに、私が直接、意見交換をする予定となっている。

さらに、高校生にも、新たな県民ホールに興味を持っていただけるよう、SNSなど若い世代に訴求力のある媒体も活用し、建替え後の施設やそこで実施する事業の魅力について積極的に広報していく。

こうした取組を通じて、若い世代の方にも数多く来ていただける魅力ある文化芸術の拠点にしていきたいと考えている。

2 オンライン対話における意見

(1) 概要

■日時：令和7年9月3日13時40分から14時40分

■参加者：知事、バイオリニスト（橘和美優氏）、バレエダンサー（吉川文菜氏）、東京藝術大学声楽科（大泉結葵氏）、県立港北高等学校吹奏楽部3年（鈴木太智氏）、美術家（平田守氏）、オペラ演出家、演出助手/建築史研究者（吉野良祐氏）

■テーマ：新県民ホールに期待すること

(2) 意見

ア 演奏家としてホールに立つ上で、アンサンブルなど他の人と演奏する時に一緒に音

を作りやすい響きがあるとよい。

- イ 吹奏楽の合奏として演奏していると、すごくまとまって演者側からも聞こえるため演奏しやすいホールという印象がある。
- ウ 何かに特化するのではなく、みんなが使えるものがよい。近くに神奈川芸術劇場もあり、みなとみらいホールもあるという、色々なものを専門にした場所があるので、県民ホールは、そういうものの真ん中にターミナルみたいな感じで色々なものが集まる場所があってよい。
- エ 今までの県民ホールでも、ある時はオーケストラやバレエをやったり、海外から来たオペラをやったと思ったら、次の週は演歌ショーをやったりする。そういう意味で多様な出し物によって来る人が色々な形で来るという、結果的にはみんなの私にとっての県民ホールっていうようになってくる。(知事)
- オ 海外のお客様にも楽しんでもらえるような劇場にしていってほしい。
- カ Kアリーナはスピーカーなど音響技術の部分でのフォローがかなりあるのではないか。Kアリーナのような大規模なほうが興行的には良い部分があるのかもしれないが、県民ホールにとっての適切なサイズを模索することも重要ではないかと思う。
- キ 県民ホールの美術展示スペースは、公共空間として大きな作品を展示することができ、かつその作品が映える空間となっていたので、美術家にとって非常にメリットがある。大きな作品を展示できる空間については維持してほしいと思う。
- ク 県民ホールでは、様々な演目が上演されていたが、ぜひ、全幕のバレエをもっと上演してほしい。舞台の大きさと客席の広さの両方がとても大切になると思う。
- ケ 公演の中には、上演時間の短く、観客数を絞ったような公演があるため、キャパの大きい大ホールだけでなく、小ホールのような小さな会場も併設すれば、四重奏や個人のリサイタルもでき、ニーズ別のお客様も満足すると思う。
- コ 新しい県民ホールはエンターテイメントと芸術の架け橋になればよいと思っている。今までの県民ホールではポップスの上演とクラシックの上演と両方やっているのがとても魅力的なので、現在大きく開いているエンターテイメントとアートの溝を埋められるのではないかと思っている。
- サ より魅力的な主催事業を制作できるホールになってほしい。貸館も重要だが、ホールが主体となって挑戦的なプロジェクトを進めて、多くの人がつながれる拠点になっていくとよい。
- シ 商業的に成功することも大事だが、オペラ、バレエなど商業的な成功という点では困難を抱える分野もあるので、公共劇場じゃないとできない文化芸術の事業を、責任をもってやっていくことが重要と思っている。
- ス 吹奏楽コンクールでの動線で、移動に使用する階段が狭かったり、楽器を搬入するエレベーターの近くに段差があるせいで接触があつたり、トラックの搬入場所が外にあり、夏だと暑すぎるなど、心配な場面があるので、様々な場面に対応できるよ

うにしていただけるとありがたい。

- セ ギャラリースペースに対しては、大きく真っ白な白壁があると絵画にしても彫刻にして映えると思う。ピクチャーレールからワイヤーを吊るして展示するのが一般的だが、パブリック空間でも壁に直接釘打ちとかができるとよい。また、映像表現ができるような何もない空間もとても重要。県民ホールで展示をやったことによって籠がつくといったことが美術家にとっては大事だったりする。そのため、伝統性は残した上で、新しくするのがよい。
- ソ 海外では、劇場そのものを見に行きたいという、そんな劇場もあるわけだから、観光スポットにもなるような要素も必要。(知事)
- タ 大容量の電源を設置し、色々な仕掛けをやっても、照明や音響でどんなにやっても対応できるといったことも必要。(知事)

3 有識者ヒアリング

(1) NPO 法人神奈川県視覚障害者福祉協会ヒアリング（令和 7 年 9 月 10 日実施）

- ア 基本的な設計について、設計の途中で、本当に使いやすい設計になっているか意見聴取をしてほしい。その時は、図面は得意ではないので説明してもらいながら進めたい。
- イ 配色について、床と階段の色を分けて、ロビジョンの人が分かりやすい色合いでコントラストをはっきりさせてほしい。特に、床と階段の始まり、壁と床、エレベーターのドアの色と壁、男子トイレと女子トイレの入り口を色分け、トイレの個室のドアと壁の色を変えてメリハリをしっかりとつけてほしい。また、階段の段鼻（角）が分かるように色分けをはっきりさせてほしい。白状が引っかかったりするので、段がついたものにせず、色で示すだけでいい。劇場のエントランスの壁や床がタイルやレンガ張りになっていると段差の線との区別がつかないので、フラットになっている素材にしてほしい。
- ウ 階段について、蹴上の高さは普通 17~18 cm ぐらいだと思うがもう少し低くしてもらうと高齢者も我々も使いやすい。バリアフリー法や関係法令等の基準に準じて階段や踊り場等に展示ブロックを作ってもらいたい。
- エ トイレについて、人感センサーの音声案内を設置してほしい。トイレの中の構造はシンプルなものにしてほしい。最近はドアがなく、クネクネ中で移動する必要があるトイレがあり困っている。トイレの中の流すボタンとウォシュレットのボタンが同じ形のため、どちらか分からぬ。流すボタンは赤、流すボタンは青と、JIS 規格でも決まっており、形状まで決まっているが、守られていない。何度か間違えて緊急呼び出しボタンを押してしまったことがある。点字で「押す」とだけ書いてあり、それを押すことで何が起きるのか分からないというケースもある。手をかざすことで流すタイプのセンサースイッチも、我々には分からぬ

い。

- オ 案内と表示について、案内表示板は大きな文字で、必要な太さで表示してほしい。表示は可能な限り目の高さにしてほしい。ロビジョンの場合、数センチまで近寄ってみるので、高いところだと近寄れないため読めない。150cm前後の高さに配置してほしい。
- カ 音声案内について、必要な場所（最低限ほしいのは、建物の入り口、受付、トイレ）へ音声案内を設置してほしいが、つけすぎるとさくなるので、一般の人に気をつかって、音声案内のタイミングを考える必要はある。また、ボリュームも演目などに差し支えないよう配慮する必要がある。三重県には白状に反応する音声案内があった。シグナルエイド対応（こちらで専用機器のボタンを押すとスピーカーがしゃべるもの）も考えられる。シグナルエイドを持っている人は全体の1割ぐらい。圏内に入るとシグナルエイドがぶるぶる震えて教えてくれて、ボタンを押すと音が聞こえる。
- キ 音声解説（演目解説）について、県立音楽堂などでやっているが、スマートフォンのBluetooth接続で、能などの説明をイヤホンで聞くことができる。会場全体でなくても、そういうエリアを設けておけばよいのではないか。また、しゃべっても良いといったエリアがあるとよい。一緒に付いてきてくれる人（ガイドや家族など）が説明してくれる時の、こそこそ声がうるさいと言われてしまうので。親子室などもあるが、そこまで隔離しなくてもいい。最近の映画では、音声解説をスマホでできるが、舞台などでは、人が話す必要があると思う。
- ク 点字ブロック（ユニバーサルデザイン）について、原則色は黄色がよい。ロビジョンの方からも見やすい。グレーや金属の場合などがあるが、床と同調した色だとどこに点字ブロックがあるのか分からぬ。点字ブロックは、屋内と屋外の基準があって、車いすを考えると屋外は高さ5mmで良いが、屋内は場所によって高さ2.5mmにすれば、車いすとか高齢の方からも文句は出ないと思う。
- ケ 人的配置について、障害のある人が単独で劇場に行きたい時に、予め支援を伝えておき、窓口で対応してくれるという仕組みがあると嬉しい。支援としては、座席までの誘導はやってほしい。それがあったら助かる。コンサート（特にオペラなど）はチケット代が高いので、行きたいと思ってもガイドを含めて2人分を購入する必要があると思うと、二の足を踏んでしまう。ホールの従業員のマニュアルを作り、障がい者の案内研修なども行い、徹底してもらえるとよい。
- コ プログラムや資料について、拡大文字で作成してくれるとありがたい。拡大文字は16～18ptの大きさで、書体は丸ゴシック体を使っている。通常のゴシックだと画数によっては文字がつぶれて黒くなりすぎるし、明朝だと細い。チケットを買った時に、データでもよいのでプログラム（当日の演目のパンフレット）を送ってほしい。
- サ 良かった事例について、客席がスロープだと良い。不規則な段差（幅の違う階段なども含む）がある会場はつらい。厚木の郷土博物館でココテープ（視覚障害者歩行テープ）を引いてもらってありがたかった。ステージの映像を舞台奥の画面に映している公演がありよ

かった。座席ごとに飛行機みたいにタブレットがついている劇場があった。その時は手話通訳の映像が出ていた。

- シ エレベーターについて、たまに音声案内で「出口はこちらです」とか言われるが、我々にはわからない。どんな仕様や音声案内にするのが良いか、機種を選定するときなどに我々に聞いてほしい。
- ス エスカレーターについて、エスカレーターは上りとか音声で教えてくれたらと思う。「3階行き上りエスカレーターです」とか。エスカレーターが使えない場合は、「このエスカレーターは使えません」といった音声も流してほしい。
- セ その他提案について、車いす席はいつも後ろの端っこなので、何か所かに配置して選べるようにするとよい。楽屋のトイレに1か所ぐらいは多目的トイレがほしい。ロービジョンだと前列だと見えるから前の方に優先席があると嬉しい。ディスプレイは、明るくても堂々と見えるエリアがあると助かる。また、ガイドが常に同時通訳しても問題ないような、しゃべってもいいエリアもほしい。

4 県民意見

(1) みんなでつくる県民ホールアイデア箱等（一部体裁を修正）

（令和7年6月18日から実施中、令和7年10月31日まで）

- ア 新しい県民ホールが、より多くの方にとって安心して楽しめる場になることを願っています。そのために、次のような工夫があるとさらに素敵だと思います。
- ・大きな車いすやストレッチャーを利用される方も、気軽に来館できるような設計。
 - ・車いすやストレッチャーのまま鑑賞できる専用スペースの設置。
 - ・視界が遮られないように、前列にゆとりをもたせるなどの工夫。
 - ・多機能トイレにユニバーサルベッドが備えられ、介助者と一緒に使える十分な広さ。
 - ・駐車場からホールまでの動線がわかりやすい設計。
 - ・エレベーターが広く、ストレッチャーや複数人でも安心して利用できること
- さまざまな人が同じ空間で文化を楽しめるホールになることを期待しています。（横浜市、40代、女性）
- イ 県民、お年寄りから子供たちも格安で使える大型ギャラリースペース。文化的なスペース。休憩スペースやカフェも併設されいたらとても利用しやすいと思います。（秦野市、50代、女性）
- ウ
- ・良い音響
 - ・段差がきちんとあって見やすい客席
 - ・入口と出口を分け、動線を一方通行にしたトイレ
- 具体的には博多座のような素敵な劇場を神奈川に作ってほしい。（横浜市、20代、女性）

エ 神奈川県民ホール建替え案を募集しているようですが、私の希望として、安藤忠雄さんに建築デザインしてもらいたいです。（神奈川ではあまり見れないので）海とかイメージして、後、万が一の防災施設として活用できるとよいかなど。（50代）